

# 民謡団体「杉山民友会」



第4回「佐渡民謡の祝祭」より

設 立 昭和56年  
会員数 35人  
三味線 16人  
唄 4人  
笛 2人  
太 鼓 2人  
踊 り 11人

同会は佐渡民謡の名人、故杉山重信さんが結成し、三味線・唄・踊りを磨く団体として歩んできました。杉山さんの家はお父さんも唄で全国準優勝した民謡一家。ご自分も新潟交通おけさキャラバンに選ばれ、全国へ佐渡民謡を広めたり三味線を研究しながら後進を指導してきました。

杉山さんのご逝去後も会として意志を継ぎ、毎週の練習では佐渡民謡を磨きながら全国の民謡曲にも取り組んでいます。また佐渡の古民謡を復活させたり、他団体との交流やボランティア活動なども積極に行い、7月の相川の鉱山まつりでは一般の方も共に踊れる機会を作っています。



杉山重信さん  
(1953-2022)

## テーマ：”相川の鉱山まつりのおけさとは” 曲目・ワンポイント注目点

- |                           |                                                                                    |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 「相川音頭」                 | 勇壮な三味線です。あらゆる技法が集約されています。                                                          |
| 2. 「両津甚句（芸妓踊り）」           | もと両津芸妓の石月先生から直接指導を受けました。<br>芸妓踊りのしなやかさ、指先にご注目下さい。                                  |
| 3. 「相川甚句」                 | 楽器と踊りの一体感で盆踊りの楽しい雰囲気を作ります。                                                         |
| 4. 「??」                   | 変わりおけさ、と呼ばれる歌詞の面白さにもご注目ください。                                                       |
| 5. 「佐渡おけさ（正調～ぞめき～選鉱場おけさ）」 | 3つのテンポで変化します。正調は朗々と、ぞめきは笛・太鼓が加わり賑やかに、<br>選鉱場は更に早くなります。踊りと地方が一体感を作り出す様子をぜひ感じてみて下さい。 |
| 6. 佐渡おけさミニワークショップ         |                                                                                    |

## 「鉱山祭り」（相川地区・令和7年7月26日、27日）

金山の総鎮守「大山祇神社」の祭礼で江戸時代は奉行所役人や山師も列席しました。明治時代に復活し山車のパレードや民謡流しが行われ、昭和前期には芸者らが艶やかに三味線を弾き練り歩きました。現在は神事芸能「やわらぎ」や天領通りの民謡流しが名物で最終日は花火も上がります。



## 歴史ある佐渡民謡「相川音頭」

江戸時代前期の寛永18年（1641）頃、「異本佐渡年代記」には佐渡奉行所の門前で賑やかな盆踊りが行われ、佐渡代官も観覧したという記録があります。これが格調高い御前踊りと呼ばれる「相川音頭」だったと考えられています。当時は謡曲に基づいた歌詞で唄われました。

江戸時代中期の盆踊りで唄われた「相川音頭」は相川で起こった心中事件を題材にした「心中鹿の子」「おさん仙次郎心中濃茶染」という詞章が人気になります（今も「宵乃舞」でこの心中口説きの相川音頭を唄う団体もあります）。しかし幕府は天保時代に心中を厳しく取り締まり、相川の盆踊りの題材も「源平軍談」を唄う形へ変化しました。特に大正～昭和時代にかけて民謡団体・立浪会や村田文三、松本丈一らの活躍で「相川音頭」が全国に広まると、立浪会の名の由来が描写された、義経弓落としの場面が広まり定着化します。

右の絵は文政4年（1841）塩竈神社奉納の絵馬です。仮装して身分の上下はわからなくなっていますが、顔を隠すとは祖霊を迎える盆踊りにつながるものでもあります。



「相川音頭絵馬」（佐渡市民俗文化財）  
所蔵：塩竈神社 管理：相川郷土博物館



「鉾山祭り流し」（撮影：近藤福雄 撮影年代不明）  
所蔵・管理：佐渡博物館

## 昔の鉾山まつり

明治中期～昭和30年代中期頃まで鉾山祭りは7月13日～15日に開催されていました。13日の午前0時になると待ってましたとばかりに、町内会や団体が通りに出てきて、山車を引いたり、おけさ流しを行いました。隊列を組むでもなく好き好きに跳ねたりしながら歌い踊りました。昭和の時代には拍子木を叩いたり、一斗缶を叩いたり、紙で作った花をつけた傘を持って踊るなどの人々が大勢いたそうです。今も一部の方々が、楽しそうに踊る光景が夜遅くにあります。相川の鉾山まつりには日頃の鉾山での労働の苦勞を吹き飛ばしたエネルギーが根底に流れています。

参考：「佐渡の民謡-唄と人の歴史-」（編著：渡辺和弘 2012年）、「相川音頭集成」（編著：山本修之助1955年）、「相川音頭全集」（編著：山本修之助1975年）、「郷土研究 佐渡」（著：山本修之助 1977年）、「天領佐渡（3）」（著：田中圭一 1992年）、YouTube「昔の鉾山祭りについて」（佐渡市）